しょうがいよう

車種別にも農産物および工場製品等の動きが盛んなときは、有かい貨車の使用割合が、石炭・鉱石類等原材料の輸送が活発なときは、無かい貨車の使用割合が低下することが通例である。(加藤礼三)

しょうがいようせい 所外養成 国鉄における職員の養成を大別すると、養成機関による養成と、所外養成の2つに分けることができる。すなわち鉄道教習所・職員養成所・技能者養成所および看護婦養成所等の養成機関で行う養成以外のものを、総称して所外養成と呼んでいる。

国鉄でいう所外養成の範囲はまことに広い。通信教育・監督者研修・連結手訓練・委託生・学術研究員・学修生のほか、職員講習会もみなこの所外養成に属する。(軽米利親)

しょうきがかり 諸機掛 起重機・汽缶(きかん)等の設備されている箇所におかれる職で、起重機その他諸機械類の操縦・保守および汽缶の焚火・保守等に従事するものである。

取扱う機械によって労働基準法に定める起重機運転士または汽缶士の免許を必要とする。(加藤誠次郎)

しょうきしゅ 諸機手 * 諸機掛の配置されている箇所におかれる職で、その指揮を受けて、諸機掛の職務補助を行う。なお機関区・電車区等において昭和32・1から整備掛と改称された。

→整備掛。(加藤誠次郎)

しょうきゅうすいとういん 諸給与出納員 日本国有鉄道法上の現金出納職員であって、出納役または分任出納役に所属するが、これと独立して会計長の命令により、従事員・職員・試用員および常勤嘱託に対する諸給与(給与・賃金・手当・旅費など)を、それらの者の勤務箇所において直接支払を行う出納員の俗称である(日本国有鉄道会計規程第9・10条)。

国鉄においては、久しく役職員等に対する諸給与の支払については、総代受領制度を採用していたが、昭和28・7以来労働基準法の定めるところにしたがい、賃金その他については、直接本人払の制度を採用することとなったので、なるべく末端の現業機関に至るまで、この諸給与出納員を設けることとした。

したがって出納役・分任出納役(駅払の場合にかぎる)または派出出納員は、諸給与出納員に支払現金を交付したときは、出納員から諸給与領収書を徴して、支払伝票に添付する。出納役等が諸給与出納員に対し支払資金を交付した場合は、一般の場合のように、交付資金の伝票の発行は要しないものとしている。なお諸給与出納員は、諸給与等の支払整理簿を備え、支払が完了するまで、支払をした日ごとに記帳整理を行うこととし、支払資金受領後、1箇月を経過しても本人に支払をすることができない場合は、原則として、その金額を当該経費に戻入する手続をとることとなっている。

この諸給与出納員の指定は、勤務箇所長が会計長の承認を受けてこれを行い、当該箇所長は、諸給与出納員を指定したときは、会計長に対し、諸給与等の支払資金の受領に用いる当該出納員の印鑑の印影を添付して、その職氏名を報告することとしている。

諸給与出納員の総裁代理権、弁償責任等については*出納員。(渡辺耕一)

しょうきんりょこうりょひ 助勤旅行旅費 駅・区・所等の職員が、自己の所属する駅区所以外の駅区所等の業務に従事するため、助勤する場合に支給される職務旅費。業務の助勤とは、駅区所等における業務の遂行が、所属職員の公休・非番・欠勤・一時的欠員等によって、他の駅区所等からの応援を受けなければ正常に行なえない場合、または業務量が平常の状態をこえ、定員のみによっては正常な業務の遂行ができない場合等に、他から

その業務を応援しまたは助勤することをいう。したがって助勤先の勤務については、当然その駅区所長の指揮を受けることになる。単に駅区所等

等に旅行し、業務の遂行について、その駅区所長の指揮監督を受けない場合は、助勤旅行とはならず、業務連絡旅行となり、連絡旅費が支給される。助勤旅行の旅費定額は表のとおりである。(青木秀夫)

区 分		日 当	宿 泊 料	
			甲 種	乙 種
所 管 内	鉄道旅行 160km 未満の場合	45	330	130
	鉄道旅行 160km 以上の場合	55	330	130
所 管 外		90	450	200

しょうくいんかぞくいあんかい 職員家族慰安会 毎年1回職員家族慰安のために国鉄が行っている行事である。これはいつから始められたのか詳細はわからないが、以前は鉄道としての総合的行事であったようである。のちに国鉄に奉公会ができて、この仕事が奉公会事業として毎年行われるようになり、その後機構の改革に伴ない、レクリエーション業務の一環として、年中行事中最大の行事として長い間引き続いて実施されている。

その内容は各鉄道管理局・工場・工事事務所その他の職域によって、思い思いに計画され実施されているが、最近では関係者の努力によって内容も充実し有効な成果を収めつつある。

このほかに現場慰問および巡回映画と称して、職員や家族の文化の向上・士気の高揚のために芸能人、映画関係者を派遣して明日の職場の活動の元になっている行事もある。(山辺貞雄)

しょうくいんクラブ 職員クラブ 国鉄における職員クラブは、数多い職場のレクリエーションの実践機関として自主的に組織されたもので、とくに現場機関が、その勤労意欲・作業能率等を増進しやすくするため、集団職場および地区連合を単位としている。

このクラブはレクリエーションの本旨にしたがって、職員のおのおのが、各自の好む種目を選んで、お互のレクリエーションの充実をはかっている。

国鉄は職場が多いだけに、職員のクラブ活動の分野も非常に広く、各種のスポーツ・教養・文芸・娯楽等の種目も種々雑多で、ある意味ではレクリエーションの不足を補い、またべつの意味では、レクリエーション活動と表裏一体をなして積極的な活動をしている。

国鉄のスポーツは古い歴史をもち、日本のスポーツ界にも大きな足跡を残しているが、教養・文芸・娯楽等の面においても、相当高いレベルに達しているものもある。これらはいずれも職員クラブによって養われ、職員の文化の向上・職場の明朗化と親睦を深めるために役立っている。(山辺貞雄)

しょうくいんこうしゅうかい 職員講習会 国鉄現業機関の長が部下職員に対し、日常業務に必要な知識技能を計画的に教習させる目的で、大正10・2制定した職員講習会規程によって、実施されたことにはじまる。

職員講習会は現場の幹部を講師とし、指定の部下職員を講習生として、一定期間教育を施すもので、国鉄の養成制度のうちでは、もっとも機宜に適したものであって、この制度の充足によって職場訓練の体制が確立されたのである。

その後この職員講習会の制度はさらに発展をとげ、養成機関に該当の部科がない場合、または養成機関の教育に支障があるとき、もしくは業務上さしせまった事由により、急速に養成を行う必要が生じた場合等には、鉄道管理局長その他の地方機関の長は、職員講習会規程に準拠して、短期間の講習会を開設す